

日時 : 2010年11月11日(木) 13:00 ~ 17:00

場所 : 塗料報知新聞社 会議室

出席者 : 窪井要((有)久保井塗装工業所)、杉山博英(アネスト岩田株)、内山貴識(東和酵素株)、
澤居昌廣(株桂精機製作所)、早川政男(第一塗装工業株)、高橋大(株三王)、
島田哲也(旭サナック株)

アドバイザー: 坂井秀也(日本工業塗装協同組合連合会技術顧問)、

平野克己(日本塗装機械工業会(CEMA))、倉持保雄(日本工業塗装協同組合連合会)、

事務局: 有馬弘純(塗料報知新聞社)

11名 敬称略

***** 議 題 *****

1. 環境省VOC対策功労者 受賞の報告と対応の協議

VOC排出抑制対策等を率先して行っている事業者又は個人・団体に対し、環境省が平成18年度より実施している揮発性有機化合物(VOC)対策功労者表彰に工業塗装高度化協議会の環境技術分科会が厳選な審査を経て特別表彰に認定されました。

この環境省の表彰において、事務局して当会を審査された(株)三菱テクノリサーチ 藤井様が分科会冒頭に参加され、授賞式や提出書類について説明された。

また、環境省の水・大気環境局の大気環境課からは、平成13年度から大気汚染防止推進月間と併せて、大気環境の確保に係る分野において貢献した功績に対し、大気環境保全活動功労者として環境局の局長表彰も合わせて受賞となり、揮発性有機化合物(VOC)対策功労者表彰と合わせて二つの受賞となった。

【揮発性有機化合物(VOC)対策功労者表彰】

受賞式日時 : 2010年12月1日(水) 10:00~11:20

受賞式場所 : 法曹会館(東京都千代田区霞ヶ関) 富士の間 (3階)

揮発性有機化合物(VOC)対策功労者表彰検討会委員長 小林 悦夫氏

【大気環境保全活動功労者表彰】

受賞式日時 : 2010年12月1日(水) 11:30~12:30からの立食懇親会終了まで

受賞式場所 : 法曹会館(東京都千代田区霞ヶ関) 高砂の間 (2階)

環境省水・大気環境局長 鷺坂 ^{おさみ}長美氏

(1) 特別賞の受賞団体名の審議

環境技術分科会活動が塗装業界初の受賞であり、受賞者名にその活動団体名を記録に残すことで一致し、工業塗装高度化協議会 環境技術分科会として受賞することとした。

(2) 受賞者及び随行者の決定

受賞者は工業塗装高度化協議会の会長である山崎秀雄氏(日本工業塗装協同組合連合会会長)とし、随行者を環境技術分科会会長の島田氏、副会長の窪井氏として当日環境局へ事務局の塗料報知新聞社 有馬氏よりFAXした。

(3) 活動の概略発表

受賞式では特別賞の2者にて各15分間の活動の報告を行うこととなっており、環境技術分科会会長にて発表資料を作成し発表することとした。発表パワーポイントは11月19日(金)までに会員へ送付し確認を取る。

パワーポイント発表内容として、会の発足経緯、活動計画の概要と成果、今後もVOC削減や塗装工程における環境負荷低減を推進し継続する決意表明を盛り込むこととする。尚、塗装の業界用語などは避け、一般向けに解り易く内容をまとめる。

2. サポイン 21 部会

サポインディングインダストリー は「ものづくり基盤技術」の略であり、経済産業省にて、ものづくり中小企業の技術開発等を支援する法律「中小企業のものづくり基盤技術の高度化に関する法律」(中小ものづくり高度化法)及び「中小企業の特定期間ものづくり基盤技術の高度化に関する指針」(技術指針)が制定されているが、その対象となる特定 20 業種に塗装に関する分野が無いことから、環境技術分科会として塗装業種を第 21 番目の分野に認定してもらおう活動を「サポイン 21 部会」と称し進めている。

(1) 塗装技術事例の勉強会

これまでの認定に向けて収集した塗装技術事例について、分科会アドバイザーの坂井氏に講師となってもらい「工業塗装の新技术あれこれ」と題し勉強会を実施した。

これまでの主な塗装技術を 3 つの 카테고리「塗装技術面」、「塗装作業面」、「塗装環境面」に分類し、それぞれの分類において 12~13 個の塗装技術の事例を交えて紹介され、参加メンバー全員で学習した。

このような勉強会は継続したいとし、次回には昔に語られた将来の塗装のあるべき姿について議論した業界紙掲載の資料を探し出して行うことも決められた。業界紙掲載記事の探索は有馬氏に依頼した。

(2) サポイン認定に向けた課題

塗装技術に関する要素はまとめあげるところまで達成したが、塗装に関わる業界の定量的な事業数や市場規模など金額や数値に関する情報が認定に向けて必要であることが課題。この課題に対しては、情報収集は難しく、例えば塗料については日本塗料工業会の用途別塗料出荷数を用い、事業者数については経産省の登録情報を調査するなど技術と市場の関係の結び付きを調査するなど労力を有する段階に来ている。

ボランティアで支えられている分科会メンバーによる調査としては限界なところもあり、各塗装団体への協力が一層必要とされる状況になってきているとした。

3. ゴミ・ブツ対策活動

モデル工場の第一塗装工業(株)の上遠野恵一氏より今回のゴミ・ブツ対策に向けた塗装ゾーンの清掃作業はゴミによる不良が減り高い効果が得られ、2010 年 11 月 5 日に別の塗装ゾーン(第二塗装ゾーン)も同様の清掃作業を実施したとの報告を紹介。特に現場の作業担当者から清掃を実施したいとの声が挙がり、塗装品質への意識が変わったことについて感謝された。

今回の活動結果は当会が主催予定としているセミナー報告会に盛り込むため、データ分析による効果も示す必要があるため、前回取上げた調査事項(下記)について再度第一塗装工業(株)早川氏に調査を依頼した。

- ① 風向の効果について、12 月 4 日(土)を候補として改善後の風向測定を行うこととした。

[測定者:内山氏、澤居氏、杉山氏]

- ② サンプル塗装板のゴム・ブツ付着度合いの再評価は、11 月 19 日(金)までに実施することとした。

[担当者:早川氏、上遠野氏]

- ③ サンプル塗装板に付着したゴム・ブツの電顕調査を 12 月 11 日(土)に実施する。

[担当者:坂井氏、内山氏]

- ④ 現在セッティングは乾燥炉内で行っていることから、データ収集について乾燥炉の違いによる推移、日割りの乾燥回数など項目を追加するようにする。

【データ追加項目】 12 月 4 日(土)風向測定担当者が上遠野氏へ確認する。

- ・塗装品と電気乾燥炉とガス炉の関係、及び乾燥回数を明確にする。
- ・土日もデータに加え、曜日も記載する。
- ・塗装作業の流れを調査しておく。

ワーク移動ルート、塗装時間、セッティング場所と時間、塗装日と検査日、不良品基準

[担当者:早川氏、上遠野氏]

⑤ その他

塗装情報として、塗料は全てウレタン塗料、塗装者は毎回同じであることが報告された。

以上の結果を次回の分科会に報告することとした。

4. 日本パウダーコーティング協同組合の参加

日本パウダーコーティング協同組合(パウダー協)殿の代表として(株)三王の高橋氏(監事)がサポインに関する部分で参加されており、パウダー協の理事会で承認されている。

これまでパウダー協とは、鈴木伸行専務理事と情報交換を交わしてきており、パウダー協の工業塗装高度化協議会会員への参加は全く問題ないとしていることを再確認した。

- ・工業塗装高度化協議会の幹事会で正式に決定。
- ・鈴木専務理事へ開催案内を正式に送り参加団体としての位置付けに変える。
- ・サポイン以外の活動では、パウダー協として出来る範囲内で参加して頂く。

5. VOC対策セミナー

工業塗装高度化協議会が主催した VOC 対策セミナー(2009年6月18日(木))の第2回セミナー開催に向け分科会の活動テーマとして取上げる。

(1) 講演テーマ案、講演タイトルと講演者候補案、日程案

項目	内容	検討事項・備考
講演テーマ(案)	塗装の環境技術セミナー	各講演タイトルが正式に決定した後、テーマ名を最終決定する。
日時(案)	2011年6月16日(木) 2011年6月18日(土) 時間は午後のみ13:00~17:00	日本工業塗装協同組合連合会会員の参加を考慮すると土曜日開催が望ましいことから左記の2案を検討する。
場所(案)	日本ペイント(株)東京事業所	平野氏にて予約状況を確認する。 また土曜日開催についても確認する。
講演タイトル(案)	①ゴミ・ブツ削減の成功事例	発表者(案):早川氏、杉山氏 環境技術分科会活動テーマの報告。
	②サポーティングインダストリーへの取組	発表者(案):木下稔夫氏 ((独)東京都立産業技術研究センター) 環境技術分科会活動テーマの報告。
	③CO ₂ 削減と乾燥炉	発表者(案):澤居氏 CO ₂ をテーマとした講演を加える。
	④産廃の分別 (塗装ラインからの産廃問題)	発表者(案):内山氏 塗装現場の実態と処理問題をレポート。
	⑤スラッジのリサイクル化 (経過発表)	発表者(案):内山氏 環境技術分科会活動テーマの経過報告。
	⑥夢の粉体塗装	発表者(案):高橋氏 環境対応塗料をテーマに加える。
	⑦水性塗装成功事例	発表者(案):未定 日本工業塗装協同組合連合会会員による発表を加える。 調整担当:窪井氏
基調講演(案)	①経済産業省	サポーティングインダストリー関連に関する基調講演。
	②JAMSTEC (独)海洋研究開発機構)	地球温暖化のシミュレーションなど地球規模の環境破壊に関する基調講演。 調整担当:内山氏
参加者目標	150名	最低120名の参加が得られるように活動する。
参加費	3000円	前回は2000円。今回、要旨集を用意するため1000円アップとする。

(2) 概略日程スケジュール

月	12	1	2	3	4	5	6
概要	第二検討 計画策定 講演者決め	→	開催日決定 会場決定 講演者決定	→	宣伝開始 準備開始 原稿メ切	→	要旨集完成 前日準備 開催

(3) 運営担当者

- ・総合司会(案) : 小泉栄氏(株) 小泉塗装工業所
- ・座長(案) : 窪井氏
- ・セミナー当日の機材操作担当(案) : 島田氏
- ・会場予約 : 平野氏
- ・案内状送付(会員向け、前回セミナー参加者向け)他 : 倉持氏

(4) 次回までの準備

- ・予算案を準備する。[平野氏]
- ・会場利用確認など上記の確認結果の報告[各担当者]
- ・講演タイトルと講演者の第二検討
- ・その他

6. 次回予定

第 29 回 環境技術分科会

2010 年 1 月 13 時 ~ 17 時 塗料報知新聞社会議室

※次回は 1 月に開催致します。日にちは、各位と調整の後決定します。

< 予定議題 >

- (1) ゴミ・ブツ対策活動 : データ測定結果の検討
- (2) サポイン21部会 : 申請書類の内容審議、認定に向けた課題対応の調整
- (3) セミナー開催の検討 : 具体的な内容の検討
- (4) 環境省表彰の報告

————— 以 上 —————